

日々新聞

東京森下吉川

町小久助といふ欲そり親父
有てその娘をかこみといふ
ハ親おも似ね心も顔も
美しれゆよこ鳥をとりん
と芝の丸山へ茶店を出せが
親の心も白銀刃や寄田せ
元山口縣の士族木由梅大員といやん今
巡査勤甲折の休暇を度ま來り大介を
天を縁とかりる濃茶の中とあじを
親父知りてやうそくハ娘ハ死の
死ぬと古い文句の困果を
かみちる香子も束の
元より志のまねお耳おれ
おま縁おそれ梅太君ハ
元の守首不歸り娘も跡を遺りて松山と先長門へ



眞信画

修三

△まじ
横えまに
妹が
先親父
ハ廻りて
帳をさめり入
久せをよと伴内
もとはの理を終不
羅平の眼小まより
双刀論論不眼中
聞きぬも是命の
殺の聞違より
あまの
あんち

大永堂
程昇誌

